

## 大井町立上大井小学校

研究テーマ：質の高い授業の創造 ～学び合い、「できた」喜びを実感できる授業～

### 1、実践の目的

本校の学校教育目標は「自立する子どもの育成」である。その具体的な姿は、

- ①深く考える子
- ②素直で思いやりのある子
- ③心も体もたくましい子
- ④進んで働く子

である。これらの児童を育てるために、本校は質の高い授業を通して、特に「深く考える子」の力の向上をめざしてきた。

質の高い授業にするために、本校が取り組んでいる授業改善の視点は、

- ・「主体的な学び」になっているか
- ・「対話的な学び」になっているか
- ・「深い学び」になっているか

の3つである。本校では、それを児童の学習活動に合わせ、

- ・めあての設定
- ・学び合い
- ・振り返り

とし、それぞれの活動内容を充実させるための研究を進めてきた。(研究の3つの柱)

本校では算数と特別の教科道德の2つの教科の研究を行っているが、研究の3つの柱は共通している。教科化された道德は、算数と同じように3つの学習活動の充実によって、道德的価値を深められると考えたからである。

### 2、実践の内容

【算数】

○めあての設定

#### 4年「わり算のしかたを考えよう」

前時の板書を大型テレビで提示することで、児童が前時と本時の学習の違いを自ら捉え、めあてを設定した。



○学び合い

#### 5年「比べ方を考えよう」

まなボードを使って話し合い、分かっている児童が説明し、それを聞いた児童が説明で足りなかったり誤ったりしているところを補うことで、理解を深めた。



○振り返り

#### 4年「わり算のしかたを考えよう」

#### 5年「面積の求め方を考えよう」

4年生では、振り返りの視点を「本時の学習で分かったこと」「これから学習したいこと」と明確にしたことで、児童が自ら学習を振り返ることができるようにした。5年生では、さらに「友達の話聞いて分かったこと」も付け加えることで、振り返りの質を高めた。

## 【特別の教科 道徳】

### ○めあての設定

#### 2年生「きいろいベンチ」

タブレットを活用して、個々に「気持ちメーター」を作成した。それをモニターに一斉表示して比較したことで、自分と友達の違いに気づき、そのずれを生かしてめあてづくりを行った。



### ○学び合い

#### 6年「ピアノの音が・・・」

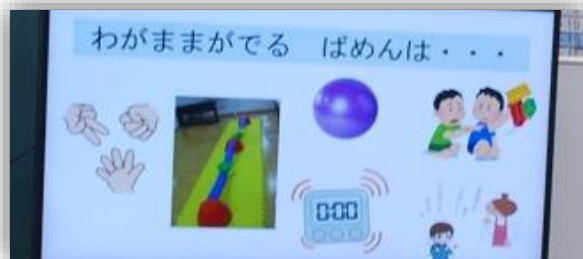
それぞれの立場で役割演技をさせることで、1つの物事も視点が異なると感じ方が違うことを実感させた。また、どうすれば解決への道筋が立てられるのか、演技のパターンを変えることで気づかせた。



### ○振り返り

#### きぼう1組・2組「かぼちゃのつる」

児童の写真と共に普段の学校生活を思い起こさせることで、わがままを自分事として捉えさせた。本時の振り返りだけでなく、今後の行動を具体的に考えさせることで道徳的実践意欲をもたせた。



## 3、実践の成果

- 教師主体の講義型の授業から脱却し、児童が自らめあてを設定するという主体的な学習の様子が見られた。
- ペアやグループ活動など、多様な形態での学び合いができた。その際、タブレット端末(一人一台・二人一台)、まなボード、ホワイトボードなどを活用することで、学び合いが深められ、児童は学び合うことを楽しいと感じていた。
- 校内研究全体会では、ICT機器を活用し、Google Jamboardを使用して、先生方が感じたことを共有した。画面の中の付箋を自由に動かすことができるので、近い意見はまとめたり、大事だと思う考えは大きくして強調したりでき、協議が深まった。



## 4、今後の展開

昨年度は「めあての設定」、今年度は「学び合い」について重点的に研究を進めてきた。来年度は「振り返り」に重きをおいて授業改善を図る計画だが、道徳では「子どもたちから出た意見をどうまとめて一つのめあてにするか」、算数では「適用問題の時間を確保するために学び合いの時間配分をどうするか」などの課題も見えた。また、「話し方」や「聞き方」、「ノートの取り方」などについても低・中・高学年で系統性をもたせた指導が必要だと感じた。

今後は具体的な改善策や指導計画を立て、より「質の高い授業」をめざしていきたい。